

第14回唐津市子ども・子育て会議 議事録

日 時：令和5年3月28日（火）午後1時30分～午後3時00分

会 場：唐津市役所 6F 第2委員会室

1 開会

2 あいさつ

唐津市保健福祉部長 田中寿幸より挨拶

3 委員の紹介

別紙参照

4 会議成立の確認

委員のうち半数以上の出席により会議成立

5 会長あいさつ

NPO 法人唐津市子育て支援情報センター センター長 山口ひろみ様より挨拶

6 議題

(1) 子ども・子育て会議の趣旨及び計画の概要について

資料1 唐津市子ども・子育て会議について

ひかり保育園：計画とは？

事務局：例えば保育所入所希望児童が1,000人いた場合に、受け入れ可能人数が900人であれば保育士を拡充したり、園を整備する必要がある。そのニーズの見込み量を算出し、事業実施の計画をたてるため、本会議で協議をするもの。

資料2 唐津市子ども・子育て支援事業計画について

(2) 第2期（現）計画の中間見直しについて

資料3-1 教育・保育施設等の利用状況等（実績）

資料3-2 地域子ども・子育て支援事業（実績）

資料 3-3 次世代育成支援に関する取り組み（実績）

松下：共働き家庭が多く、保育認定の利用児童が多い。長時間保育の児童が多い。唐津は多子世帯が多かったが、子ども自体は減っている印象。

会長：保育士不足についての印象

松下：旧唐津市内では保育士の確保ができるが、呼子町では求人を出しても集まらない。保育士人材確保事業で家賃補助等を受けられるが、希望する保育士が少ない。

会長：質の充実と数の確保はどちらも必要。

藤田：あかみず保育園は企業主導型。前月に利用希望 本社に所属する保育士が派遣される日もある。派遣保育士に対しては子どもも混乱するため、固定保育士が増えるとよいと考えている。365日開所している。

会長：365日開所のニーズは？

藤田：R3は20:00までの利用児がいたが、退園したため今年度は最後の児童が18時頃降園した後は勤務扱いにならないため、現場としては制作等をできないと葛藤しているようにも感じる。

岸本：兄弟で幼稚園、認定こども園と入り方が違う場合

松下：もともと幼稚園であったが、満3歳になる前に他園に行き初めてしまうため認定こども園に移行した。幼稚園利用の児童については、預かり保育で対応している。おやつ代は別途かかる。

岸本：入学まで預かる園もある？

松下：在籍は3月31日まで。

鈴木：放課後児童クラブは4月1日からの受け入れ。

田中：入学説明会の中で、児童クラブ利用の案内は行っている。

岸本：定員を超えた場合は？

鈴木：定員を超えた場合は待機となる。

事務局（前田）：校区によって利用希望者数に違いはある。

岸本：待機となった子どもが空きのある児童クラブに行くことはできるのか？

前田：不可。

山口：民間の児童クラブもできているが、送迎の問題で利用可能な地区は限られている。

田中：児童クラブの対象児童が高学年に拡大された時期は、児童クラブのスペースが満員状態の時期もあったが、

放デイの送迎待機場所として、児童クラブを利用する児童もいる。

山口：放デイは旧唐津地区に偏っているため、送迎ができない等の理由で旧市街地区の児童は利用できない場合もある。課題である。

櫻井：児童福祉分野を希望する学生のアルバイト先として、保育園、児童クラブ、放デイを聞く。喜んで行っている印象。免許資格は持っていない段階のため、補助的な役割であるが、もともと本人たちの意識があるため

大学内に生涯学習センター（？）を設置しており、学生を配置している。固定メンバーを配置。顔

見知りの関係を重視している。

佐賀市外からも通学している生徒は多い。単位を取得していれば3～4年次は授業が詰まっているわけではないため、現場を経験できる。

中尾：唐津市内では兄弟で同じ園に通うことができず、別の園に通わせているため大変という家庭の話聞く。保育料の負担を感じている家庭も多い。

会長：きょうだいで別の園に通う家庭の割合はわかるか。

楠田：年度途中での入所は別の園になる場合もある。新年度からは同じ園に転園できる方が多い。

山口：就労場所に合わせた児童クラブ

保護者田中：自身は妻と自営業。夕方妻が料理をしている間、自身がお迎えに行き遊ばせている。母親ひとりでお迎えに行き料理もしている家庭は本当に大変だと思う。

会長：これまでは子育ては家庭の責任、特に母親の責任という通念があった。地域で支えていく必要がある。

PTA 本吉：保育園に預けられなかったため、仕事に復帰できないと話す知人がいる。行政からのアドバイスがあればよいと感じている。児童クラブに学生がアルバイトに来ていたが、親身にこどもに寄り添ってくれ、子どもも喜んで話していた。

石田：自身は郡部在住だが、実家近くに住まう家庭が多い。相談できる人として、実家や義実家を挙げる方も多いが、

会長：母子保健推進員は、産婦さんが初めて会う「地域の人」である場合も多い。地域にそういう方がいる安心感はきっとある。

アウトリーチを。

(3) 第3期(次期)計画策定に向けた流れについて 14:45～

岸本：子どもの貧困について、子ども食堂等が増えているが、実際に子ども食堂に通っている子どもが全員貧しいというわけではない。支援が必要であるが、利用につながっていない子どももいるのではないかと。主任児童委員へも支援が必要が児童の情報はおりてこない。個人情報保護の問題はあると思うが、必要最低限の情報は必要。

事務局：1章追加し、子どもの貧困を取り扱う予定。

資料4 唐津市子ども・子育て支援事業計画策定までのスケジュール

7 閉会